

香川ニユース

第19号

発行所
香川自治会
広報委員会
印刷横濱プロジェクト
045(711)0672

今月のこよみ

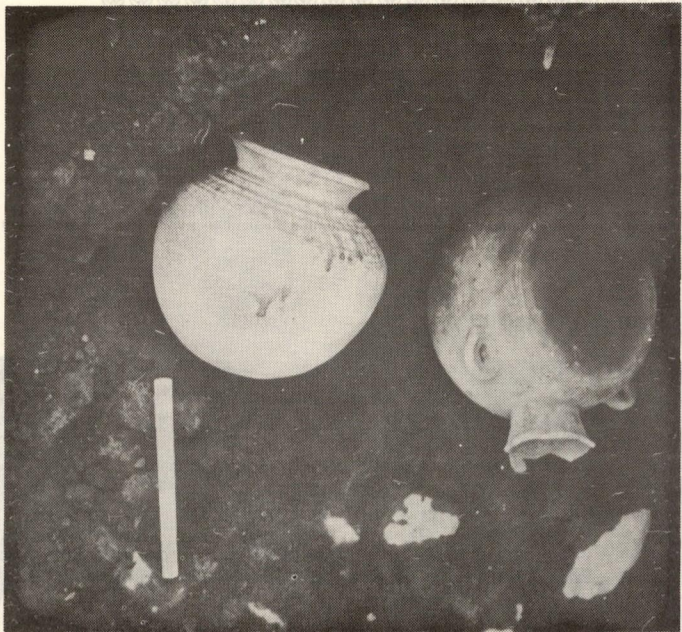
3日(水) 文化の日
8日(月) 立冬
14日(日) 万歩運動・芋煮会
23日(火) 勤労感謝の日

篠谷の宅造現場で

横穴古墳群を発掘

香川字篠谷の東急宅地造成現場から、十数箇の横穴古墳が発見され、県教育文化財保護課、茅ヶ崎市教委が十一月一日から赤星直忠文化財専門委員(考古学担当)の指導で発掘調査を始めた。

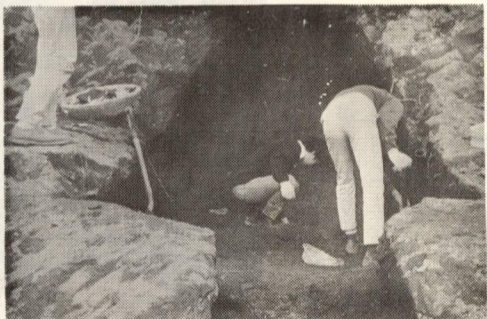
期待されている。今回発見された横穴群は、通称亀の子山といわれ、スリーハンドレッド・ゴルフ場の西端にあたる東急甘沼団地造成の工事道路を建設のため、山をくずしていたところ、ぽっかり穴があき、中につぼや土器類が見られ、古墳らしいものがあることがわかり、直ちに関



古墳内にあるつぼや人骨

係当局に連絡、文化財関係者の県からの指示を待った。そして一日から十二日まで県が発掘することになった。一日は赤星専門委員の指導で、昼ごろから作業にとりかかったが、最初の高さ一、五メートル、深さ五メートル(うち三メートルは工事のためくずれた)の古墳を掘ったところ、青石などの敷き石が発掘された。さらに付近に七つの横穴群があることがわかり、初日は午後五時で作業をやめた。二日からは大学生や北陵高校生徒など、学生の応援を求め、中止している造成工事あまり負担をかけないよう、急ピッチで発掘作業が進められた。作業が進むにつれて大規模なものも出てきた。これまでに十六の横穴が見つかっている。出土品もかなり発掘されて、原型もそのままの大きなつぼや水飲み、おさら、長さ三センチの刀子(とうす)あるいは人骨、獣骨などが出てきた。この十六の横穴群は、初め奈良時代後半期と推定されていたが、つぼなどの焼き物の色合いもまちなため、時代などの調査は、これからの課題となっている。なお出土品は市の郷土資料館におさめては?という声もあり、古墳あとを現状のまま遺跡として残

すかどうかは課題になっているが、県の文化財委員の話では、「砂地のなかで地盤が弱く、このまま残した場合に、子供などが出入りして遊び、崩れる心配もあるので、現状保存は難点があるのではないかとのことである。」

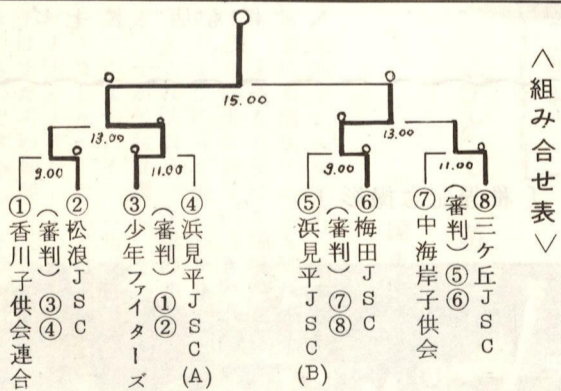


古墳内で土器類を探す協力者たち

少年野球大会で

松浪J.S.C.に敗れる

選抜少年野球大会実行委員会主催の第二回選抜少年野球大会が、十一月三日(水)午前八時半から茅ヶ崎小学校校庭で開かれた。茅ヶ崎チームは浜見平スポーツ少年団他八チームで、出場選手は二十名。試合は、七イニングス(延長二回限り)、軟式C号の球を使用、塁間二二、八メートル、投手投野球規則を適用、各チームから二名ずつ審判員が出て行われた。香川からは、香川子供会連合の選手たちが参加し、堂々と戦ったが、松浪J.S.C.チームに五対八でイタズラだった。優勝は少年ファースト勝敗は、次の通りである。(太線○は勝ちを示す)



△組み合せ表△

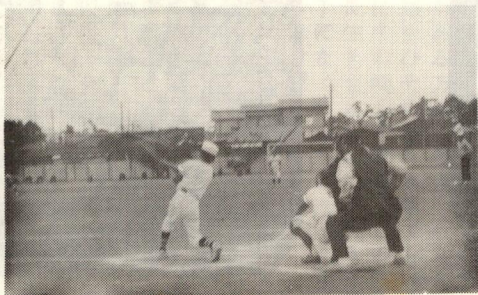
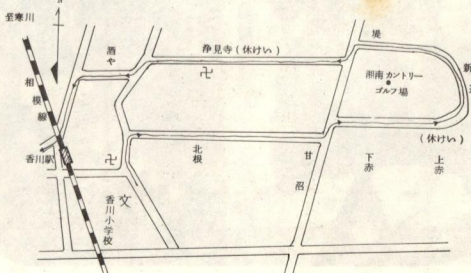
万歩運動と

芋煮会を実施

十一月十四日(日)、香川体育振興会主催の万歩会が実施された。八時半に香川小学校に集合し、九時出発。参加者は約四十名。秋晴れの日を、歩け歩くと老いも若きも仲よくつれだつて、晩秋の野道を心ゆくまで楽しんだ。コースは香川小学校から、甘沼スリーハンドの山に入り、修道院の北の道を東へ進み、上赤羽根に出て、しばらく休けい。ここで、サーピスの飲み物にのどをうるおし、堤に出て、大岡越前守の墓で有名な浄見寺、篠谷を経て、香川駅に正午頃つき、そのあと希望者が芋煮会に参加した。東北地方で行なう野宴のことで、同地方では行

く秋を惜しんで、里芋やごぼうなど、野の幸を野原で煮て、なべを囲んで欲談し、楽しくひとときを過ごすとのことだ。これにちなんで、香川の住民同士の友愛と親睦を深め、意志の疎通を図るために実施された。

△コース略図△



【いいあたり、球はどんどん伸びる】

永昌寺で墓地を売る

希望者は電話で

市内室田二五三番地の曹洞宗永昌寺では、墓地購入希望者を求めています。六尺と五尺五寸、五尺と七尺各五万円、六尺と七尺七万円、三区画、世話人の意向で来年からは値上げの予定なので希望者はお早めにとのこと。申込は直接永昌寺へ。電話は八二一一二〇六

花やかに晋山式終る

可愛い稚児姿に人気集中

〔香川駅前を行く行列の先頭〕



〔可愛い稚児たち〕



ニュース・グラフィック

〔山門より本堂に向う住職〕



十月二十四日(日)、玄珊寺卅世福田素也住職の晋山式が盛大に挙行された。絶好の晴天に恵まれ、五色の幟り、ハッピ姿のキヤリを先頭に、可愛い稚児たち百七十名と住職達の行列が、大通りをはなやかに行列し、沿道の人たちの目を奪った。九時半には山門に到着、境内には緑日の店も出てにぎやかだった。稚児達の記念撮影も二班に分れてとるほどで、かんむりが陽光にまばゆく光り、まことにきらびやかだった。本堂ではプログラムに従って寂光堂落慶へ

法要、祝国開堂式礼、上堂香、問答などが厳粛に行われ、司会者がわかりやすく解説をされる声が一と高く境内にひびき渡った。曹洞宗管長、甘利前県会議長、亀井隆義市議、副議長他の祝辞のあと野中建設に感謝状が贈られ岡本定二氏が経過報告をされた。次に首座法戦式、記念撮影、相信徒各家総回向が、無事式は終了した。玄珊寺の記録によれば、百年前のことか。感嘆した印象に残るりっぱな行事だった。

〔本堂で法戦式の光景〕



〔稚児記念撮影〕



清掃奉仕を続ける 市営住宅の小野翁

香川に住んで以来、今日まで五年間、一日も欠かさず市営住宅団地の周囲を、きれいに掃除をしておられる奇篤な方がいらつしやる。香川二五一番地、市営住宅にお住まいの小野角太郎氏（八十才）がそれだ。

小野さんは、御夫人との二人暮らしだが、自分の住む所を清潔な環境にし、美しい住みよい町にしようと考へ、附近の清掃を始めたこと。また朝七時半頃、昼、三時頃と、一日三回もほうきとちりとりを手にして掃き続けておられるのは、健康のためによいと考へたからだそうだ。



〔今日も市営住宅の周囲を清掃する小野角太郎氏〕

れども、初めて本紙で香川の人たちを紹介してほしい」という要望があったので、ここに掲載することとした。

浄心寺で上棟式

十月二十四日（日）、午後三時から浄心寺庫裏の上棟式が盛大に行われた。

賛同を得て、全額寄附で庫裏を建設することになったもの。天候にめぐまれ、日曜とも重なり、祝餅もたくさんまかれ、大勢の人でにぎわった。



お餅をまく世話人たち

好評だった文化展

十一月一日から三日間、十時から四時まで、聖恵幼稚園を会場として、文化展が開催された。

「このような文化展は、たいへんよい催しであるから、是非来年も続けてほしい」というのが参観者の声で、たいへん好評だった。

親の願い

東 大胡悦子

「心のひろば」より

私はかつては子であつた。そして随分と親に迷惑をかけた。今は親となり祖母となつて、子や孫が自分の期待する人間像でない事を悲しみいささかある。親の願いといふものは、親が生きているうちには子に通じないものなのか。かつては子であつた私もそうであつた。そして親となり祖母となつて、今

私が幼稚園へ上がる前です。五才位の時の事だと思ひます。針仕事をしていた母の傍で、姉から一度教わつた事のある鶴を折つて遊んでいた時の事を、今でも思い出す事があります。

は亡き親の願いをしみじみと知る。この私が子に孫に何を望み、何を願つても容易に受入れないのか。それをあえて口にする親心は老婆心であつて、子達の抵抗を買う事になる。親の願いは親の心の中に秘めて口に出さず、そつと子の行末を祈る。それがやがて子が親になつて判る事だ。それでいい、見守っているのである。なにも言わない親心、何もいわない親の願いが本心に判るのは、親の私がいなくなつた時、それでいいのではない。親という字は、木に立つて見ると書く。子の行方を村はずれの峠の木のそばでたゞずんで見送るといふ心と解いた人がある。しっかりとやれという無言のほげまじしは親心である。それを知らない子もある。知つていて知らないふ

んど屋敷の周りで草木・虫を相手に自分独自の面白さを見つけては遊んだものです。その折鶴の時ももし他に面白い遊びのできる友達でも来れば直ぐにそちらへ気が変つたでしょうが、家の中では母と二人だし、折角自分で鶴を折つてみようと思つたからには、何とかしてと思つて足のしびれるのも忘れて頑張つたのでしよう。

随想

子どもの遊び

南国末澄子

これは自己流の考へ方かも知れませんが、あの小さなビー玉を当てるには、非常な集中力、遠近に対する感覚、力のバランス又その成功感など、又メンコの腕の力、忍耐力など、なかなか幼い子ども遊びとしては悪くはないと思ひます。それを大人が相手に子供の興味と力を考へながらやらしたといふことに意義があり、なかなか子供の心になつて子供と共に遊ぶといふ事は、並の人間にはできない事だと思ひます。

その時の母の心境は、鶴の折り方に自信がなかつたのか、自分の仕事に忙しかつたのか、問いに答へる暇がなかつたのか、それとも意図的に教へなかつたかは分りませんが、多分母の性格からして後者ではないかと思ひますが、その時の夢になつた気持ちを何となく今でも感ずるようです。

郷土めぐり

「白浪五人男」南郷力丸が
ひっそりと西運寺に眠る

河竹黙阿弥作、歌舞伎で有名な本名題「青砥稿花紅彩画」、俗にいう「白浪五人男」に登場する南郷力丸の墓が町屋の西運寺にある。この劇は、一八六二年(文久二年)三月、江戸市村座で、一三世市村羽左衛門(後の五世菊五郎)の弁天小僧らによって初演された。通称「弁天小僧」ともいう。三世歌川豊国筆の役者見立の錦絵から着想した世話狂言で、日本駄右衛門・南郷力丸・赤星十三郎・忠信利平・弁天小僧という五人の盗賊が活躍する。娘姿の弁天小僧がゆすりを働き、肌ぬぎでたんかを切る三幕目の「浜松屋」、五人男がそれぞれ伊達姿で勢ぞろいする四幕目「稲瀬川」が、絵画的、音楽的にも洗練された様式美を備え、歌舞伎劇中にも有数の人気狂言になっている。力丸の稲瀬川での台詞は「さてどんじりに控しは、潮風荒き小ゆるぎの、磯馴の松の曲りなり、人となつたる浜育ち、仁義の道も白川の、夜船へ乗り込む船盗



〔参詣人もない南郷力丸の墓〕

人、波にさらめく稲妻の、白刃におどす人殺し、背負って立たれぬ罪とがは、その身に重き虎が石、悪事千里というからは、どうで終りは木の空と、覚悟はかねて鴨立、しかしあわれは身に知らぬ、念仏嫌いな、南郷力丸」である。「南郷」と「南湖」との関係とか、どうしてここに墓があるのかは、定かではないが、「現在でも力丸の墓の施主として供養を続けられておられるイヌイ酒店の熊沢さんに伺うとよい」と西運寺の住職に教えられ、熊沢さんを訪問した。すると熊沢さんは次のように話して下さった。「南郷力丸は実在の人である。五人の男は別々の時代の人になっているが、戯曲では同時代の人になっている。昔、イヌイ酒店の前に、若い娘と老人が住んでいた。或日突然、娘が原因不明の病気になるてしまった。そこで病気がなるようにと祈願したら、南郷力丸の霊が出てきた。そこでそこにお墓を建て、ねんごろに供養したら、娘の病気はたちまち回復した。そして不思議なことに、或夜突然その親子は夜逃げ同然の有様で行方をくらましてしまった。後にはただお墓だけが、ぼつんと残っていたというのだ。またもうひとつの話がある。「半病人のような状態で本村附近に、力丸が倒れていた。村人たちが看病したが、そのかきもなくなると死んでしまった。そこで或人があわれんでそこに墓を建て、それを南湖の現在地に移した。どんな悪者、泥棒でも、仏となれば一切の罪は消え失せるので、手あつく供

養したのだ。」と、南湖の某氏は語った。どれが真実かは不明だが、郷土の遺跡めぐりなどでも、興味のある所である。(城田恵司)

文化祭俳句大会で
長島さんが三位に

十一月三日を中心に、各種団体の多彩な行事が展開されたが、文化祭協賛茅花会が、十六日三位を獲得、磯百合子さんも十位に入賞された。席題は「秋時雨」と「紅葉」で下欄に掲載してある茅花会投吟中の長島さんの句が、入賞句である

観光ガイド
紅葉の美しい瑞泉寺

鎌倉駅からバスにのり鎌倉宮で下車、北東約一キロの地に、重文木造夢窓国師坐像のある瑞泉寺がある。嘉暦二年(一二三三)に夢窓疎石国師の開創、後足利基氏の中興。以来足利家香華院十二ヶ所の一として信仰され、至徳四年(三八七年)には、後龜山天皇の勅により同宗関東十刹の第二に列せられた。昔五山の高僧が集まって詩の会を開いたという「遍界一覽亭」は、水戸光圀が閑居中再建したものだと言え、寺の後の錦屏山の頂にあって、富士・箱根の連山を眺めることができる。境内はまた風致に富み、春は梅や水仙の名所となり(花期二月中旬〜下旬)、秋の紅葉(十一月中旬〜下旬)は、市中第一である。庭園は夢窓国師の名園として名高く、石と水と樹木など、自然を生かした禅宗特有のものである。昭和四十五年春旧態に復元され、訪れる人々の目を楽ませている

境内には文士久米正雄の墓がある。拝観料は志程度。精進料理なども味わえ、茶会なども催される。鎌倉のハイキングは、いろいろあるが、瑞泉寺を含むバス利用コースを次に紹介する。

▲北鎌倉下車、円覚寺・東慶寺・建長寺(バス又は徒歩)・一八幡宮(バス又は徒歩)・瑞泉寺(徒歩)・大塔官(徒歩)・(バス)・(八幡宮)・(徒歩)・(浄光明寺)・(徒歩)・(鎌倉駅)・(徒歩)

▲半日コース
徒歩コースを紹介する。

(イ)北鎌倉諸寺歴訪(円覚寺、東慶寺、浄智寺、長寿寺、明月院、建長寺)
(ロ)円覚寺、東慶寺、建長寺、亀ヶ谷切通し(長寿寺横道、浄光明寺、寿福寺、鎌倉駅)

このみのりたえて肥馬の高鳴く
富士箱根墨絵にも似て夕づくる
桐一葉蹴散らしてもずたけり去る
秋なれやこの小さき草紅葉して
高杉 一枝

草紅葉日ざし早める田舎道
秋の燈に石にすがりて蛙一つ
あぜをゆく蛙動かす草紅葉
もず鳴きて朝のしじまの一刻を
柳田ふじ子

病む友にカーテン引きて茫野を断つ
箱根にて
エンジン快調夫多弁なり紅葉道
茫野を赤き電車の見えかくれ
大胡 悦子

娘は嫁して遂に一人の秋の燈
めぐりめぐり想い出の記や秋の燈
草紅葉挿花入れて障子映ゆ
磯 百合子

月見んと来れば無月の波の音
月が出て別れの言葉途切れけり
刻止りたるが如くに無月の夜

茅花会
十一月投吟集

長島 久江
信じて子を待つ夕べ雁渡る
方言がそのままだ返る山紅葉
終バスへ客押しこめし村時雨
むつまじく秋の燈謡曲あふ
秋晴に蛙木に刺す舌の声
草紅葉白き野菊が浮びけり
秋の水小川の流れ一葉船
日は落ちて秋の燈ゴルフ所に
秋の水まだ心地よき蕪洗ふ
稲の穂を抱え大空を背にして
井上 喜枝

溪谷の織りなす色や秋の水
秋の日のなすことせわし定休日
秋の燈や下校の子待つ母の顔
百舌鳥をいてこたまりの帰る来る
山裾に絵筆走らす草紅葉
藤村 球子

頬かぶりの女すたすた越の秋
山路来て鏡割含む秋の水
一つこと想い続けて旅の秋
愛憎は人の世のこと百舌鳥の空
扇心のひと日を遊べ紅葉山

聖恵幼稚園

○書道教室
いつでも
入会できます

○音楽教室
ピアノ科
ヴァイオリン科
エレクトーン科
ギター科

香川中通り一三三六
電話(82)六六五四